ま え が き

ここに、2021 年度における当研究所の活動実績をまとめた年報 54 号を発刊する運びとなりました。

2020 年 3 月 7 日に、当研究所の PCR 検査で群馬県第 1 例目の新型コロナ陽性者が確認されて以来、これまでに第 1 波から第 7 波の流行の波が押し寄せています。

この間、衛研では PCR 検査、変異株スクリーニング検査、NGS によるゲノム解析等、国立感染症研究所、県、保健所、医療機関、民間の検査会社等と連携して対応してきました。所内での業務分担の見直し、新たな検査機器の購入等により検査体制を整備するだけでなく、全職員の協力により積極的疫学調査等、保健所支援も行ってきました。

2021 年 12 月には第 5 波を振り返り、保健所と一緒に第 6 波に向けた新型コロナウィルス感染症合同カンファレンスを開催しました。この頃の新型コロナでは、家庭だけでなく、事業所や外国人コミュニティ等でのクラスター対策が重要な課題であり、この会には県型保健所に加え、前橋市保健所、高崎市保健所、感染症がん疾病対策課、医務課、健康福祉課だけでなく、産業経済部事業支援係や地域創生部多文化共生係の方も WEB で参加してくださり、貴重な情報共有ができました。しかし、第 6 波は予想をはるかに超える大きな波になってしまいました。

11 月に南アフリカ等から報告のあった変異株は オミクロン株と命名されました。群馬県でも 2022 年 1 月からの第 6 波ではオミクロン株（BA.1 系統）が流行し、3 月からは BA.2 系統、7 月からの第 7 波では BA.2 よりも感染力の強い BA.5 系統が主流となりました。群馬県では 8 月には 1 日 3,000 人を超える陽性者が報告される日もありましたが、８月中旬をピークに陽性者は徐々に減少し、9 月 26 日以降は、これまでの全数届出ではなく届出が必要なのは４類型に整理されました。10 月 15 日以降、群馬県では警戒レベル 1 になりましたが、まだまだ油断はできません。

水際対策が緩和され、今後外国との交流や経済活動の活発化もあり、インフルエンザとの同時流行や第８派、新たな変異株の出現も懸念されます。オミクロン株対応のワクチンも使用できるようなりましたが、今後も場面に応じて、マスク着用や換気等、これまでの基本的な感染対策もしばらく続ける必要があると思います

地球温暖化の進行によって、異常気象の発生、台風や大雨の被害が拡大しており、当研究所の気候変動適応センターとしての役割も重要になってきます。

群馬県衛生環境研究所は、これからも関係機関と連携しながら、困った時に「頼りにされる研究所」を目指して、職員一同努力して参ります。引き続き、皆様方の暖かいご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

2022 年 10 月

群馬県衛生環境研究所長　　猿木信裕